

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して。。。)

記入年月日	平成 20 年 6 月 15 日
事業所名	グループホーム浦里
事業所番号	2371400884
記入者名	職名 管理者等 氏名 八木静枝 一戸智恵子 鈴木愛子
連絡先電話番号	052-624-3382

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、家訓として「4. 世代をこえた交流、地域との交流」を掲げている。運営推進会議を機に、更なる地域との交流を目指している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員が理念を共有している。問題が生じたらすぐにカンファレンスを行い、理念に沿ったケアができるよう取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム内に理念と家訓を掲示しており、来訪者の目にとまるようになっている。また、運営推進会議で地域に理解と協力を求めている。構成員の町内会長の積極的な対応を得ることができ地域に浸透し始めている。利用者も町内会に入会し公園清掃や町内行事に参加し理解と協力を求めている。	○ 地域との共存の必要性を感じ、現在地域に根付くための働きかけを積極的に行っている。来春、地域の文化劇場を借りて「認知症サポーター養成講座」を地域包括支援センターの協力のもと、ホーム主催で開催する予定である。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物等、積極的に地域に出掛けるようにしている。その際職員は積極的に挨拶を交わしている。また、ベランダや庭先での庭いじりが近所の方との交流のきっかけになっている。月1回、手芸教室を開催しており、地域の方が参加されている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者全員が町内会に入会している。公園清掃や地域主催のイベントには積極的に参加し交流を深めている。地域の消防団にホームに来て頂き救急救命講習を受講した。関わりを持つことで地域の理解を求めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方が気軽に相談できるよう相談窓口を設けていることを回覧板を通じて示している。また、地域包括支援センター主催の家族会でホーム長が講演している。独居高齢者へいつでもホームに遊びに来て頂けるよう喫茶サロンの呼びかけをしている。	○	地域に、災害時に協力を求めると共に災害状況に応じて、ホーム内で地域の高齢者を受け入れる態勢を整えていることを話し合っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価に取り組んでいる。職員全員が評価の内容を把握することで、自らの気づきを改善へと結びつけられるようにしている。また、受けた評価を真摯に受け止め、改善に向けて、常に職員全員で改善に向けての話し合いをしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、取り組みを報告し意見を求めている。頂いた意見は職員全体で共有し、今後のサービス向上に向けての対策を話し合っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームを運営する上で、不明な点疑問点があれば市の担当者に問い合わせている。また、提出物等があれば、できる限り窓口まで直接持って行くようにしている。地域包括支援センターと連携するように努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前入所されていた利用者が成年後見制度を利用していた際に学んでいる。必要があると思われる方には、制度の紹介を行っている。また、機会があれば研修を受講するようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修・講習会に参加するよう努めている。また、参加した職員による伝達講習を行い、職員全員が研修内容を共有できるようにしている。事業所内では、常に話し合う機会を設け情報を共有することにより、事業所内虐待の防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者とその家族に契約書や重要事項を用いて説明している。必ず不明な点・疑問点を項目毎に確認するようにしている。また、質問等には理解・納得できるまで説明している。契約後でも疑問や質問が生じれば受けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者の意見・意志を確認している。理念を念頭にその意見・意志をどのように活かしていくか必要に応じて職員全員で話し合っている。なるべく情報が交錯しないように、窓口はホーム長に一本化している。外部の相談機関の情報は、契約時に必ず提供している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月請求書を送付する際に、個人の出納帳や状況報告をできる限り写真入りで家族に送っている。職員や利用者の異動は運営推進会議で報告しており、会議議事録を送っている。また、状況に応じては、その都度電話等で報告・相談を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	情報や対応が交錯しないよう窓口をホーム長に一本化している。苦情や相談は随時行っていることを契約書等に明示している。認知症対応型共同生活介護計画を送る際や家族の面会時にはできる限り情報を提供しその都度意見を確認するようにして、その場で対応・解決するように努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に話し合いの場を設けている。また、職員の意見や意向を確認し、取り入れるように努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	法令で必要と定められた人数の確保はされている。更に、ホーム長や看護師（代表）が日中はほとんどホームにおり、病院介助等人手がいる時には対応できるようになっている。また、レク等で外出する際には、職員は積極的に協力している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当時よりほとんど職員の異動がないため、安定した生活を提供できている。もし新しい職員が入った場合は、必ず馴染みの職員が新しい職員の指導に当たるようにし、利用者の混乱が最小限になるようにしている。過去に利用者が新しい職員を指導している場面を見受けたこともあった。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は研修・講習会情報の提供をしている。職員自ら希望したり、ホーム長より打診する場合もある。資格取得や研修参加を推奨しており、それに伴った勤務の調整をしている。研修参加者は職員全員に伝達講習を行っている		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域でグループホームのみの交流会があり、定期的に勉強会等が開催され参加している。代表は交流会の役員をしている。交流会のなかで、年に一度親睦会も行っており、他グループホーム職員同士交流する機会もある。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が働きやすいよう勤務調整を柔軟に行っており、職員同士も勤務交替を快く受けている。ストレス発散の場として食事会を設けている。また、何でも言い合い相談できる環境を作っている。常にホーム長もしくは看護師がホームにおり、集中して業務に携われるようにしている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格習得や研修会参加を推奨している。また、資格習得していく職員を見て、その他の職員も触発され、互いに向上心を持つ事ができている。資格習得や研修会参加に際しては、柔軟な勤務調整を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム長が利用者宅もしくは病院・施設等に出向き、事前に顔を見ながら話し合う機会を設けている。また、必ず入所前には利用者にホームまで来て頂きホームの雰囲気を知り納得して頂いた上で、入所を決定して頂くようにしている。その間に利用者・家族の不安やニーズを確認している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記同様、家族への支援も同時に行っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時相談を受け付けており、入所するしないを問わず受けている。家族の思いを伺いながら相談に応じ、他サービスを紹介することで再び在宅での介護を続ける決断をされた方もみえる。相談時に思いを話されることで、「少し気持ちが楽になりました」と言って帰られていく方もみえる。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に至るまでは必ずホーム長が面接・相談を行うことで馴染みの関係を作っていく。自宅や病院・施設に伺い、利用者・家族の思いを確認している。その後、ホームに足を運んで頂き利用者・職員と一緒にお茶を飲むことで、入居当日も「知っている顔・場所」という安心感で本人も納得し入居できるようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から調理方法を学んだり、野菜作り等を通して共に育て収穫している。また、各自役割を持って生活できるよう支援している。各年代の職員がおり、嫁・娘・孫世代との関わりができるように心掛けている。また、共に本音で生活できるよう時に気持ちをぶつけ合うこともある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報を共に共有できるよう、家族と情報交換を行っている。また、草木や野菜作りなど来訪時に教えて下さることもある。敬老会や祭り等のイベントに参加を呼びかけ、協力して頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出泊を勧めており、誕生日には家族と外食に行かれたり、お盆等にはお墓参りに出掛けたりされている。また、関係が良好ではない場合もあり、その際は面会時に会話の橋渡しをしたり、利用者の普段の家族への気持ちを代弁するなど状況を見ながら関係が修復できるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前地域に住んでいた方もみえ、友人が遊びに来たりされる。家族・友人ともにホームでの面会を歓迎している。お茶を出したり、自室で過ごして頂くなど、出入りしやすい環境を作っている。故郷に里帰りできる体制を整えたり、お墓参りができるよう同行することもある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各自役割を持って生活できるように支援している。それにより互いを認め合えるようにしている。また、職員が一步下がって見守ることで、利用者同士が協力できるような環境を作っている。関係作りが苦手な方には職員が橋渡しをするなど、状況に合わせて支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も年賀状を出している。必要に応じて状況確認のため、電話で近況報告を聞いたりしている。また、在宅へ戻られる方については、何かあればホームで相談できることを説明している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れている。状況に応じて個人的に本人の意向を伺ったり、利用者同士話し合う場（会議）を設け、気持ちを表出できる機会を作っている。また、言動からみえる本音などにも着目し、傾聴・把握することで、できる限り要望に応えられるようにしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を活かしながら、聴取的な情報収集とならないよう、場面場面に合わせた会話の中から生活歴等を確認するようにしている。必要に応じて家族や以前のサービス担当者から情報収集することもしている。得た情報は記録に残すなど、職員間で共有できるようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	画一的なケアではなく、共同生活の中にも個別ケアを取り入れている。各自の有する能力に合わせて、役割を持った過ごし方ができるよう配慮している。また日々の変化（体調・言動等）を見逃さず、職員間で情報交換し情報を共有することで各個人を総合的に把握できるように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に個別ケアカンファレンスを行っている。その際に計画の見直しや、その時々に応じたケアの必要性を話し合っている。本人や家族の要望も取り入れている。また、個別ケアカンファレンスで話し合われた意見や、日々の記録の中から計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な個別カンファレンスはもちろんだが、急遽見直しの必要が生じたときには、その日のうちに解決するようにしており、現状にあったケアができるようにしている。一過性の場合もあり、状況に応じて新たな計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を基本に、ホーム独自の記録用紙を作成している。記録は気づきや言動の変化に着目しやすい書式となっている。記録と申し送りを密にし、情報の共有を行うことにより、計画に活かせるようにしている。適宜記録用紙の書式変更をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師が常勤していることにより、疾病に対応できる。希望に応じてターミナルケアも行っている。常時ホーム長・看護師（代表）がホームにいるため、人数的にも余裕があり、個別ケアに対応できる。また、職員の団結力があり年に2～3回の旅行に出掛けたり、行事を催すことができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者全員が町内会に入会している。災害時に対応してもらえるよう町内会長や地域の消防団へ協力を依頼している。また地域の消防団よりホーム内で救急救命講習をしていただいた。運営推会議を通じて民生委員の協力も得られている。		来春、地域包括支援センターの協力を得て、ホーム主催で「認知症サポーター養成講座」の講演会を行う予定である。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	退所が決定した場合は、退所後に適切なサービスが受けられるよう、他サービス機関と綿密な調整を行うように努めている。また、他事業所のケアマネが定期的に訪問され、サービスの情報交換を行っている。また、他グループホームと事例検討を行うなどしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホーム長は地域包括支援センター主催の認知症を持つ家族会で講演している。必要に応じて地域包括支援センターに相談にのって頂くなどしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>今までの暮らしを情報提供し、なるべく今までの生活が継続できるようサマリーの提供をしている。他施設職員が面会時にみえる時には必要に応じて同席するようにしている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>状況に応じて、個別に対応を変化させている。誇りやプライバシーを尊重するように努めている。記録は所定の場所に保管している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ホームの理念である「自分で選んで決める暮らし」を基本に支援している。なるべく本人に現状を理解・納得して頂けるように支援している。そのために、職員は日々情報交換を行い情報の共有を図っている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>家訓である「3. 体調・気分に合わせて生活を」に沿って、決められたスケジュールはなく、気分や天候に合わせて生活している。より家庭に近い環境を整えている。その中で、各自の状況やペースに合わせて生活ができるよう支援している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>基本的には各自で洋服選びを毎朝行って頂いている。季節に合わなかったりや着方が不適切であった場合は自尊心を傷つけないように何気なく着替えて頂く。本人の希望に合わせて床屋・美容院もしくはホーム内の散髪かを選択して頂く。家族が行きつけの美容院へ連れて行かれることもある。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
((3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持している方もみえる。ほとんどの方はこちらで管理しているが、外出や旅行・おやつを食べに出掛けた日などは、決まった設定額の中で、自己にて買い物をする機会を設けている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夜間の防犯目的以外は施錠していないため、各自庭に出て過ごされている。利用者同士、周辺に散歩に出掛けられる方もみえる。また、一人では出掛けられない方も、買い物や散歩等希望に合わせて一緒に出掛けられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に利用者の墓参りや観劇に同行している。また、郷里に住む、姉と兄に会いたいという希望から、郷里の姉宅に宿泊できるよう調整したこともある。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出せるよう支援している。希望があれば電話できるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問しやすい環境を整えている。事前連絡なく気軽に訪問されている。リビングや居室等思い思いの場所で過ごされる。他の利用者にも話しかける方もみえる。仏壇の花を持ってきたり草木を持ってみえる方もいる。お茶を出し居心地のいい環境を整えている。その際に近況報告をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受けるなど、身体拘束について学び、研修後は伝達講習を行っている。職員全員が理解してケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間防犯上の理由で施錠をする以外は、常に門戸は開放されている。出入りも自由であるため、利用者の状況に留意し見守っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	なるべく自分の意志で生活できるように、各自思い思いの場所で過ごせるよう支援している。自室・外庭・リビングそれぞれがそれぞれの場所で過ごされているため、利用者のプライバシーに配慮しながら所在の把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品（洗剤類含む）・火・カミソリ・包丁・はさみ・爪切り等の刃物や危険物に関しては、職員が保管し使用時は見守っている。それ以外のものに関しては、利用者の状況に合わせ対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修等に参加し知識を学んでいる。また研修参加者は伝達講習を行い、職員全員が周知できるようにしている。地域の消防団より、職員全員が救急救命法を学んだ。また、個別ケアカンファレンス等を行い、個別の事故防止対策ができるようにしている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員を対象に、ホーム内で地域の消防団に来て頂き、救急救命講習を受けた。また、定期的に避難訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に火災・地震を想定した避難訓練を行っている。また、地域の消防団に協力を求めたり、運営推進会議を通して、町内会に協力を求める働きかけをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	自分らしく生活して頂けるよう、意志を尊重し、そこから考えられるリスクを本人・家族に説明し理解を求めている。またできる限り事故のないよう環境整備を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝・入浴前は必ずバイタル測定を行っている。異常があれば、状況に応じて再検したり、看護師もしくは医師に報告している。バイタルサイン以外にも異変に気付いたときには報告し、また申し送りをするなど、情報の共有に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	重篤な副作用の恐れがある場合や、注意しなければならない薬品については医師もしくは看護師より事前に説明を受ける。薬の目的や用法等については、薬局でもらう個別の情報提供書がファイリングしてあるため、すぐに確認できるようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックをしており、職員は便秘の原因をアセスメントし、状況に応じて対応している。野菜を多く含むメニューにしたり、水分が取れるよう工夫している。また、散歩や腹部マッサージ等も意識して行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っていただいている。習慣化されている方もみえる。状況に合わせて個別ケアを行っている。定期的に義歯の消毒をしている。GH交流会の口腔ケアの講習会に参加しに職員全員が共通の知識を持って行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々栄養バランスを考え食事作りをしている。疾病や食事能力、口腔の状況を考慮して、個別に量や形状を変えている。また、水分に関しては、必要量が摂取できるように支援している。摂取量の確認と記録を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗いの徹底をしており、手洗い手順や必要性が洗面所に貼ってある。マニュアル作成している。また、感染症グッズが準備してある。1日2回床拭きとトイレ掃除の徹底。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前は必ず手洗い・アルコール消毒の徹底。下痢等胃腸症状のある利用者・職員は台所に入らないよう徹底している。食器は毎食後次亜塩素酸ナトリウム入りの消毒液で消毒している。賞味期限の厳守。冷蔵庫の清掃も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベランダや外庭に草木や野菜を植えてあり、利用者・家族はもちろん、近所の方も気軽に声を掛けてきて会話が生まれる。夜間以外は施錠はしておらず、天候がよければドアは開放してあり、いつでも入れるようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた環境作りをしている。（正月用品。ひな人形、お月見、クリスマス等） また、特別な配慮はしていないが、より家庭に近い環境を作っている。畳部屋の設置、古い家具や椅子・ソファ・座布団・ベンチ等あらゆる所に置いてあり、自分で居場所を決められるようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	上記同様。自分で居場所を作れるようにしている。ちゃぶ台を囲む女性利用者2人。自室に戻ってテレビを観る方、庭に出てひなたぼっこをする3人。互いに思い思いの場所で過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	持参された方は、各自の家具を使用している。仏 壇を置かれている方もみえる。家具の持ち込みが ない場合は、ホームの家具を貸しているが、使い 込まれた古い家具を選択している。布団もベッド か床に敷くのか、本人の希望と身体状況を考慮し ながら話し合っ て選択している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	日中は常時隙間を作ることで、空気のだよみをな くしている。冬はすきま風が直接当たらないよ うに配慮している。冷暖房にて一定温度が保てるよ うにしている。カーテンやブラインドを使用して 遮光に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて、家具やベッドの配置を 考慮している。また、歩行不安定な方には、畳を 敷いたり、家具等の配置により、つたって歩行で きるように配慮している。安全な動線を整えるこ とにより、自立を促している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	それぞれの能力に合わせた役割があり、継続して 行っていることで、ホーム内での存在価値を見い だせるよう配慮している。利用者個々の意志を尊 重し、できる限り制限しない生活ができるよ うにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	いつでも外庭に出られるようになっている。外庭 には草木・野菜が植えてあったり、物干し台が設 置してある。椅子が置いてあり、日よけもあるた め、思い思いに外に出て過ごされている。夕方 になると子供が遊んでいるのを眺めている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開放的であり、世代の違いによりより家庭的である。出掛ける機会も多く楽しみ喜びが、生活に活気をもたらしている。